

天空のドラマと地上の歴史を縁取る、西洋占星術の愛すべき天体たち

キ・セ・キ相談室 主宰 開運コンシェルジュ 貴^{たか}taka

皆さま、はじめまして。占い師の貴 taka です。

『新 四盤暦』2026 年（令和 8 年）版発刊にあたり、異分野ではありますが西洋占星術に関連するお話を少々させていただきたいと思います。占術の解説ではありませんので、気楽な読み物としておつきあいください。

まず西洋占星術について簡単にご紹介します。

西洋占星術では実在する天体の運行によって運勢を占います。ある時点において、12 の星座のどこに 10 の天体が位置していたかを示す天体図（ホロスコープ）を作成し、個人の運勢や事象や世相などに反映させて判断していきます。

12 星座は黄道十二宮ともいわれ、地球から見た太陽の通り道（黄道）を 12 等分した場所にあてはめられた 12 の星座です。太陽は 1 か月ごとに一つずつ星座を移り、その星座に太陽が滞在する期間に誕生した人は、その星座の持つ性格を有すると考えられています。西洋占星術が成立した紀元前 2 世紀ころ、春分点がおひつじ座にあったことからこの星座が一番目になりました。おひつじ座以降の星座の順序と時期は【表 1】のとおりです。ギリシャ神話では星座にまつわる話がそれぞれにあり、また天体の名称もギリシャ神話の神々から名づけられています。

【表 1】12 星座

順序	1	2	3	4	5	6
名称	おひつじ座	おうし座	ふたご座	かに座	しし座	おとめ座
記号	♈	♉	♊	♋	♌	♍
太陽の位置	3 月 21 日～ 4 月 19 日	4 月 20 日～ 5 月 20 日	5 月 21 日～ 6 月 21 日	6 月 22 日～ 7 月 22 日	7 月 23 日～ 8 月 22 日	8 月 23 日～ 9 月 22 日

順序	7	8	9	10	11	12
名称	てんびん座	さそり座	いて座	やぎ座	みずかめ座	うお座
記号	♎	♏	♐	♑	♒	♓
太陽の位置	9 月 23 日～ 10 月 23 日	10 月 24 日～ 11 月 22 日	11 月 23 日～ 12 月 21 日	12 月 22 日～ 1 月 19 日	1 月 20 日～ 2 月 18 日	2 月 19 日～ 3 月 20 日

年によって日付がずれることがあります

10 の天体はいわば個性豊かな 10 人の登場人物で【表 2】のとおりです。天体（太陽を除く惑星）ごとにそれぞれ公転周期が異なることから、地球の公転が他の天体を追い越すと、地球上からはあたかもその天体が後退（逆行）しているように見えます。天動説の時代の人にとっては順行と逆行を繰り返す惑星の運行は不思議で神秘的に感じたことでしょう。これらの複雑な動きにより各天体には特

有の性格や働きが与えられました。芝居に善玉と悪玉があるように、天体にも恩恵を与えてくれる吉星と災いや争いをもたらす凶星があります。その中でも木星は最大吉星といわれ、約 12 年をかけて 12 星座を一巡することから年運を占う重要な役割を担います。

【表 2】天体

天体	太陽	月	水星	金星	火星
記号	☉	☾	♿	♀	♂
名称	ヘリオス 太陽神	セレーネ 月の女神	ヘルメス (マーキュリー) 神々の伝令使	アフロディーテ (ヴィーナス) 愛美性の女神	アレース (マルス) 戦いの神

天体	木星	土星	天王星	海王星	冥王星
記号	♃	♄	♅	♆	♇
名称	ゼウス (ジュピター) 全能の最高神	サトゥルヌス (クロノス) 時間と農耕の神	ウラノス 天空神	ポセイドン 海と地震の神	ハーデス (プルート) 冥界の神

()内の名称は英語名

ここからは天体の運行によって繰り広げられる天空のドラマを、世界の偉人の活躍になぞらえ、木星を主人公にして心情を和歌とともにご案内したいと思います。

6月10日「金星の来訪」

夢よりも 儚きものは 夏の夜の 暁がたの 別れなりけり

上記【表 2】にもあるようにギリシャ神話では木星は全知全能の神、そして金星は愛と美と性の女神でどちらも吉星です。この魅力的なカップルは 2026 年 6 月 10 日に 4 番目の星座・かに座でランデブー。前回この二つの天体が交わったのは 2025 年の 8 月ですから約 10 ヶ月ぶりの逢瀬です。

さて金星のイメージとしては、絶世の美女として名高い古代エジプト女王クレオパトラ 7 世がふさわしいでしょう。美貌だけでなく知識と大胆さも兼ね備えた彼女は、共和制ローマの政務官であるカエサルとアントニウスという当代きっての二人の英雄の心を掴みます。彼らを愛し、彼らの子を産み、彼らと一緒に国を治め、戦い、そして状況に応じて裏切る…。まさに金星の奔放で気まぐれな様子を彷彿とさせます。史実ではカエサルは暗殺、アントニウスは戦死、クレオパトラは毒蛇による自死という不幸な幕引きでしたが、天空の世界では違います。木星はローマの英雄ではなく天空の最高神であり、金星も天空の女神ですから、恋の駆け引きも幾億万年と続くのです。

蟹は多産で高い繁殖能力を秘めた生き物です。今回のかに座でのランデブーは木星と金星はさぞかしムフフな関係で、クレオパトラとローマの英雄たちのように深くしつぱりとした愛を交わすことでしょう。にもかかわらず金星はなんと 4 日後には木星をかに座に置き去りにしたまま、一足早く次の 5

番目の星座・しし座に移っていきます。秋になると金星は8番目の星座・さそり座まで進んだところで、7番目の星座・てんびん座まで引き返して思わせぶりの様子を見せますが、再びくりと背中を向けて遠ざかります。

そんな金星を、天下無双の木星は動じることなくおおらかに受け止めます。なぜならば別離の悲しさより再会の喜びに恋の醍醐味があることを知っているからです。木星の目には金星のつれないうしろ姿すらいとおしく映っていることでしょう。

「夢よりも 儚きものは 夏の夜の 暁がたの 別れなりけり（壬生忠岑）」

これはひとり取り残された余韻を楽しむ木星の心のつぶやきでしょうか。木星にとっては別れも人生の隠し味なのかもしれません。残念ながら人間の生には限りがありますが、だからこそ私たちはたとえ一瞬の情感であっても大切にしたいものです。

7月1日「木星の大移行」

これやこの 行くも帰るも わかれては 知るも知らぬも 逢坂の関

木星は告げます。2026年の夏、世界は守りから攻めへとダイナミックに転じていくことを。

7月1日、木星はかに座に別れを告げ、しし座に移行します。かに座は「守り保護」し、「内側に蓄える」センチメンタルな星座で、一方しし座は「正義と自信」のアクティブな星座です。星座間の境界線を越えることは異次元の世界に入ることです。

ヨーロッパの西端、ポルトガル共和国に大西洋に突き出た場所にロカ岬があります。ここはユーラシア大陸の最西端で、この地の石碑に「ここに地果て、海始まる」と詩が刻まれています。岬のすぐ下は断崖絶壁になっており、眼下の海に向かって落ち込む景観は圧巻で、極東の日本からしたら正真正銘の地の果てです。そしてその先に目を向けると大海原が水平線の彼方まで広がっており、陸地とは全く異なる未知の世界がそこにあります。

大航海時代、コロンブスがスペインの港から大西洋に乗り出したとき、彼らはこの茫洋とした大海を目の前にしてどんな思いを胸に抱いていたのでしょうか。境界線を越えればこれまでの常識はもう通用しません。宝物を発見できるか、出会うのは友か敵か、はたまた自身が病に倒れるか、想像を超える出来事が待ち受けているでしょう。頼れるのは己の力量と幸運のみ。そうして人間は未知の領域に足を踏み入れ、失敗と成功を繰り返しながら新しい時代を作り上げてきたのです。

さて一方、日本では明治になるまで交通の要所に関所が設けられていました。越境の厳しさや無常さを前に、わが身を鼓舞するように詠った先人の和歌があります。

「これやこの 行くも帰るも わかれては 知るも知らぬも 逢坂の関（蟬丸）」

コロンブスならずとも、誰もが心に信念と勇気を持ち、不安を期待と好奇心に変えて境界線を踏み越えて行ったことでしょう。この先何が起こるかはわからないが、まず行動してみる。結果は後から付いてくる。木星の大移行はそんな挑戦と冒険心を私たちに意識させてくれます。

11月15日「火星、木星の勇敢なる近衛兵」

大海の 磯もとどろに寄する波 われて碎けて裂けて散るかも

炎のように赤い火星はギリシャ神話では争いを司る凶星ですが、ローマ神話においては勇敢な戦士として軍神マルスの異名を持ちます。どちらも勇猛果敢に戦うイメージが重ねられています。火星を

示す記号♂（【表2】参照）は分解すると○と→になり、これは○が防御の盾を、→は槍や剣などの攻撃武器を示しています。そして赤い色は血の色や真っ赤にたぎる闘争心を連想させます。

2026年の火星は後顧することなく前進し、次々と星座を通り過ぎて一騎当千とばかりに敵をなぎ払います。その勢いは11月15日にしし座で木星と合流することでクライマックスを迎えます。荒くれ者だった火星は、しし座の高貴な正義感に触れて屈強な近衛兵に変身します。最高神・木星を傍らで援護する榮譽を与えられたのです。

かつての常勝ナポレオン軍も、ナポレオン・ボナパルトのみが天才であったばかりではなく、彼を支えた無敗の元帥たちの活躍を抜きには語れません。強将の下に弱兵なしで、戦術家、歩兵指揮官、騎兵指揮官、砲兵指揮官が揃い、まさに一丸となって戦闘に臨んで掴んだ勝利だったでしょう。ちなみにナポレオンは1769年8月15日生まれでしし座です。これら複数の元帥たちの役割を、天空では火星が一身に担っています。

争いは破壊をもたらします。ビジネス用語で比喩的にスクラップアンドビルドという言葉が使われますが、これは痛みを伴う破壊を経て刷新を成功させることを指しています。物事にはこのように光と影の両極が存在し、火星は影となって破壊者の憎まれ役を引き受けます。この秋、しし座という舞台で木星の正義がひととき映える背景には、汚名をものともせず機動力に長けた火星という立役者がいるのです。その後は木星がバトンタッチして、破壊された世界に新しい息吹を与えていきます。2026年に火星が破壊したいもの、それは「現状への甘え」で、木星が再構築するのは「以前よりも強くしなやかな世界」です。

火星は木星に追いついてからもその歩みを止めず、まるで露払いをするかのように木星に先んじて快進撃を続けます。この恐れを知らぬ火星の益^{ます}荒^ら男ぶりを、木星は次の和歌に想いを託して讃えます。

「大海の 磯もとどろに寄する波 われて砕けて裂けて散るかも（源実朝）」

さて、このように上記以外にもドラマが展開されていく2026年の天空ですが、とりわけ自信と行動を促すしし座と成長パワーの木星の結びつきは、地上の私たちにも大きな影響を与えてくれることでしょう。

このたび干支九星・華の会 新宮有貴先生とのご縁により『新 四盤暦 令和8年版』に拙筆をしたためさせていただく運びとなりました。このような機会に恵まれ、光栄の至りと感じております。あらためて新宮先生ならびに関係者各位に厚く御礼申し上げます。

またともに占いに携わる同好の士の知己を得られましたことも大変うれしく思います。『新 四盤暦』を愛用される方々に対し、私からのメッセージとして以下の和歌を発刊の慶びに代えさせていただきます。

新しき 年の初めに思ふどち い群れて居れば 嬉しくもあるか（道祖王）

最後までお読みいただき、ありがとうございました。